

米国の飼料穀物の需給状況

－ 畜産分野における価格高騰への対応 －

平成19年10月

農林水産省生産局畜産部

出典：独立行政法人 農畜産業振興機構

ワシントン駐在員事務所



はじめに

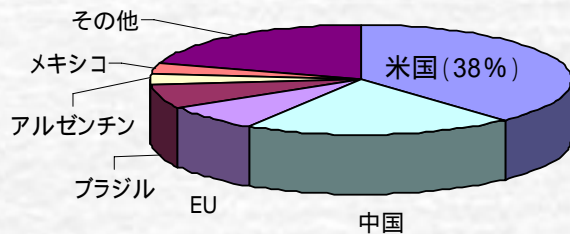
- 世界的な飼料穀物の需給逼迫・価格上昇
- 飼料穀物需給に与える米国の影響
- 飼料価格はどのように決まっていくのか
- 米国の畜産経営は飼料の高騰にどう対応しているのか
- 米国の畜産業界はこれからどのように変化していくと予想されるのか

世界の穀物需給と米国の位置づけ

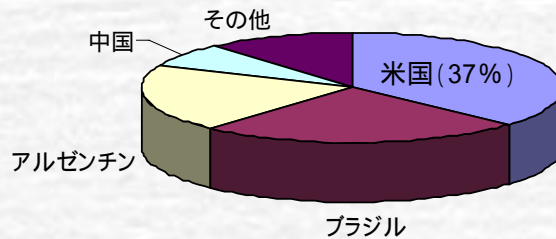
生産量

米国は世界の穀物需給に絶対的な影響力

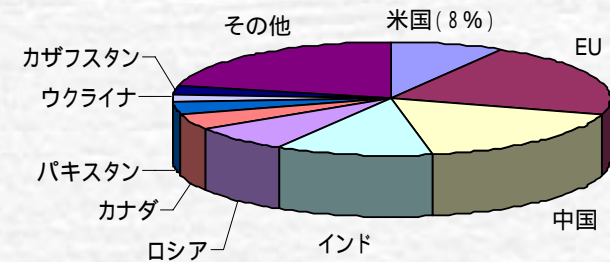
〔 トウモロコシ: 7.0億トン 〕



〔 大豆: 2.4億トン 〕

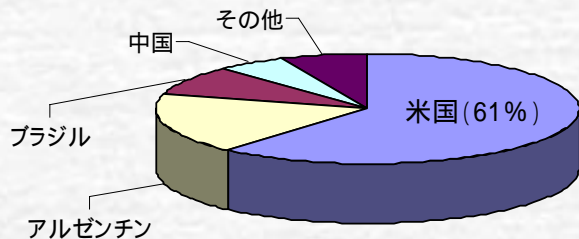


〔 小麦: 5.9億トン 〕

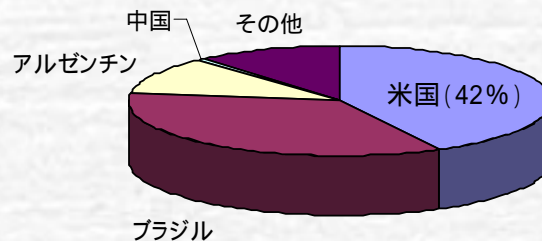


輸出量

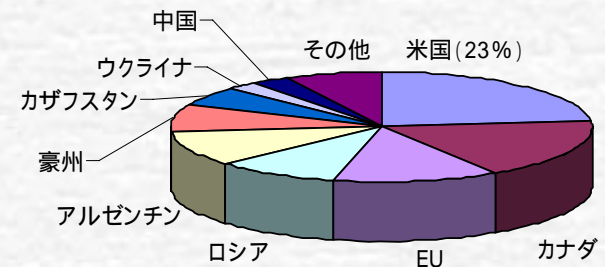
〔 トウモロコシ: 8700万トン 〕



〔 大豆: 7100万トン 〕



〔 小麦: 1億700万トン 〕



資料: USDA/WAOB



飼料穀物の生産動向

- 米国の耕作地は作目間の奪い合い
最も利益が上がるのはトウモロコシ
- 反収の伸びは今後も続く
遺伝子組み換え作物による病害虫対応
輪作体系の変更でトウモロコシの生産拡大も
- 米国のコーンベルトは水資源に恵まれている
最終的な農作物の生産制限要因は「水」に帰結
- 注視すべき要素
政府補助金(休耕助成と作物別支払い)
耕作不適地での作付拡大と不作リスクの増大



飼料穀物の需要動向

- 需要拡大に大きく貢献してきたのは米国畜産
トウモロコシの6割、大豆の5割は家畜飼料に
- トウモロコシ需要の急拡大: エタノール
エタノール120億ガロン = 43.5億ブッシェル
- 大豆需要の順調な拡大: 大豆油
バイオディーゼルの影響は大きくない
(輸入規制がないので産業の急速な発展は困難)
- 注視すべき要素
再生可能燃料政策
DDGSと大豆ミールの需要 = 畜産の動向



飼料穀物の価格動向

米国の価格高騰は既定路線

- 穀物価格は3種類

シカゴ相場、現物市場価格、生産者価格

- 現物市場価格はシカゴ相場 ± 輸送代金
- 生産者価格は先物売りや現物販売の加重平均

- 輸送経費の大幅な上昇

ミシシッピ川(国内) / 外航(国際)

- 注視すべき要素

原油相場 エタノール価格 トウモロコシ価格

3種類の価格の格差(拡大傾向)

DDGSや大豆ミールの価格



エタノール生産拡大の副作用

- トウモロコシ価格の急騰

昨年暮れには4ドル相場に。現在はやや落ち着く。
中西部の農家は大喜び。一方で畜産農家が悲鳴。

- 農産物の補助金支払が減少

価格変動対応支払いやローン不足払いの支出減。
2007年農業法の検討に当たっての「財源」が縮小。

- 食品価格の高騰

2007年の消費者物価指数(食品)は前年比 + 3.5 ~ 4.5%。
都市部のメディアを中心に「補助金まみれの産業」と批判。



飼料価格の高騰への対応

コスト上昇への対応方法は畜種や経営により多様

【経費削減】

飼料設計の見直し

- DDGSの活用
- 食品残渣の活用

先物市場の活用

肥育期間の短縮

素牛価格の引き下げ

【収入増大】

生産減による価格引き上げ

- 養鶏業界は対応済

新規市場の開拓

- 養豚業界は輸出に活路

流通業界による一部負担

- パッカーの集荷競争

【政治活動】 RFS(再生可能燃料基準)引き上げ阻止に向けてロビイング活動